

「物産館無花果」 プロジェクト会議 資料



目 次

第1章 はじめに

- 1 「物産館無花果」の概要
- 2 プロジェクト会議発足の背景と目的

第2章 プロジェクト会議

- 1 「物産館無花果」の現状
- 2 「物産館無花果」の課題
- 3 「物産館無花果」の目指す姿・将来像

第3章 その他

- 1 今後のスケジュール等

第1章 はじめに

1 「物産館無花果」の概要

奈半利町はごめん・なはり線が開通した平成14年度、交通アクセスの拡充を機に地域の農産物や特産品を発信することを目的として「物産館無花果」をオープンした。

当店舗では、店舗販売やイベント出店、通販サイトの運用やふるさと納税への出品を行い、奈半利町の魅力を町内外に発信する役割が期待されるほか、町の玄関口として観光案内の機能や、町内を自由に観光できるようレンタサイクルのサービスも行っており、観光拠点の一つとして機能している。



2 プロジェクト会議発足の背景と目的

奈半利町は高知県東部の結節点としての機能を有しているものの、長時間滞在できる観光コンテンツが乏しく観光客にとっては単なる通過点となっている。そんな中、奈半利駅舎内に店舗を構える「物産館無花果」は非常に重要な役割を持つが、開業から20年以上経過した現在、赤字経営が続いており観光客をとどめるコンテンツとなり得ていないのが現状である。

そのため、令和5年度から運営法人である一般社団法人なはりの郷はプロジェクト会議を発足し、奈半利町の地域振興と会社全体の経営改善を目的として協議を重ねてきた。

1

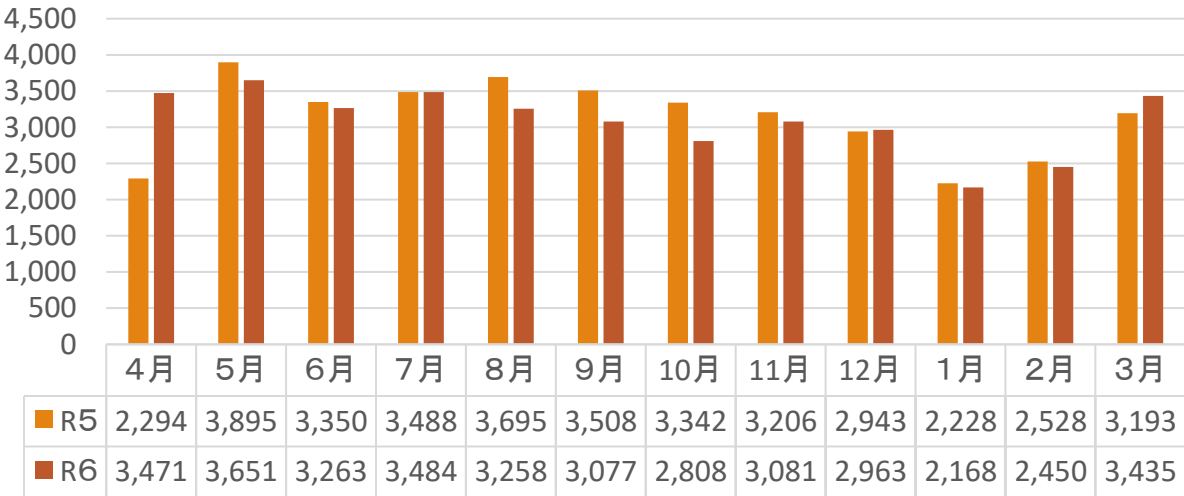
「物産館無花果」の現状

経営状況

単位：人

レジ通過者数

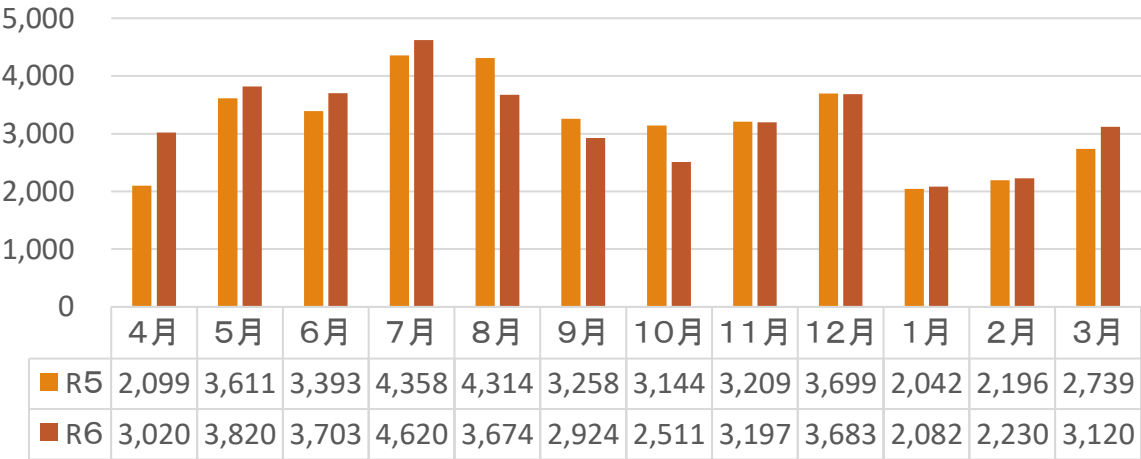
出典元：(一社)なはりの郷



単位：円

店舗売上額

出典元：(一社)なはりの郷



- ・レジ通過者数・店舗売上額ともに5月～8月が高く、1月、2月が低くなっている。
- ・特に7月ごろの売上額が高く、特産品のスイカやイチジクなどの売れ行きが好調であると考えられる。
- ・通年で見ると、レジ通過者数は若干の減少がみられるが、店舗売上額は500万円ほどの増額となっている。

「物産館無花果」の強み

①立地

「物産館無花果」は奈半利駅舎内に店舗を構え、ごめんなはり線の利用客はもちろん、地元の小学生からお年寄りまで幅広い世代が気軽に立ち寄れる立地にある。

また、奈半利町周辺には北川村の「モネの庭」マルモッタン」や室戸市の「室戸世界ジオパーク」「むろと廃校水族館」といった観光地が点在しているほか、駅周辺ではイベントが多数開催されており、観光客が店舗へ流入することで、新たな顧客との接点や売上増加の機会につながっている。



②イチジク

全国的にも珍しい完熟の状態で収穫されたイチジクが店頭に並ぶ。青果だけでなく、ドライイチジクやジャムにしてアイスクリームにかけるなど様々な楽しみ方ができる。

また、見た目に難があるB品イチジクは冷凍で保管し、新商品開発への活用を検討している。



2 「物産館無花果」の課題

店舗の課題

①店舗の暗さ

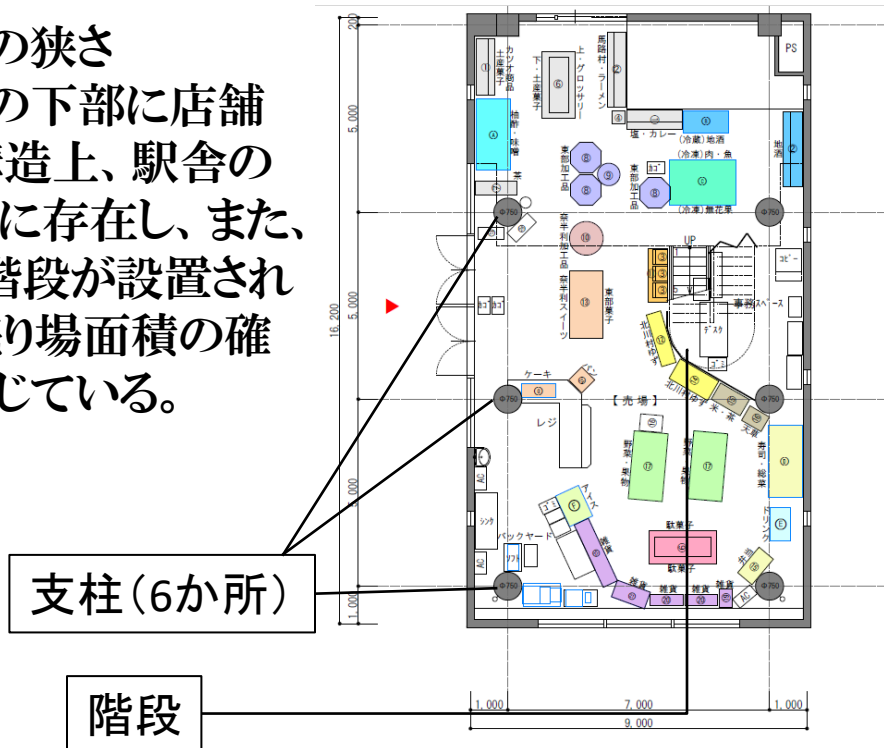
「物産館無花果」は店舗前を通る県道から営業しているか判断しづらいほど全体が暗く、車で訪れる観光客の確保が難しい状況となっている。

要因として、店舗上部のバルコニーが日差しを遮って影を落としていることと、天井が高いことにより照明が店舗全体に届きづらいことが考えられる。



②売り場面積の狭さ

奈半利駅舎の下部に店舗があるという構造上、駅舎の支柱が店舗内に存在し、また、店舗2階への階段が設置されているなど、売り場面積の確保に制約が生じている。



その他の課題

○粗利率の低さ

委託販売が取扱商品の多くを占めており、価格設定や値引き・セット販売といった販売戦略に制限があるため販売や売場の工夫を行いつらく、粗利の向上を妨げる要因の一つとなっている。

対策として、自社商品の開発を検討しており、現在青果として販売できていない「B品のイチジク」の活用を模索しているが、今後はこういった取り組みに加え商品構成の見直しも含めた改善が求められる。



イチジクのストック
約1t/年

ドリンク系



かき氷（イチジク氷）



3 「物産館無花果」の目指す姿・将来像

コンセプト

①高知県東部のスイーツが集まるセレクトショップ

高知県東部には、個性的なスイーツを製造する事業者が点在しているものの、それらを一度に楽しめる場所は限られており、「県東部スイーツの集まる場所」として広域からの集客が見込める。

また、地元食品を活用したオリジナル商品などを通じて町の魅力発信と経済循環の拠点としての役割も担っていく。



②「食べる・買う・学ぶ」が融合した「物産館無花果」

地元の食材を生かした商品やスイーツをその場で「食べ」、来客者の「購買意欲を高める」とともに、レシピの紹介や生産者の思いなどを通して「学ぶ」ことのできる物産館。

・イートインコーナー・テイクアウトの設置

・レシピの紹介、パネル展示

など

観光案内所としての機能強化

①近隣の観光地との連携による観光入込数の増加

ごめんなはり線の終着駅という立地と、リニューアルによる発信力等の向上を活かし、近隣の観光地との連携を強化する。

広域的な観光情報を提供する案内機能を高め、地域全体への観光客の流れを生み出すハブ拠点として、観光入込数の増加を図る。



②町内観光コンテンツを活用した周遊ツアーの実施

町内の自然・文化・食などの観光資源を生かした周遊型のツアープランを作成・実施する。

物産館を観光の起点として、町内での滞在時間を延ばす仕組みを作ることで、地域への消費拡大と経済効果の向上を目指す。





1 今後のスケジュール等

基本計画策定後のスケジュール

- 令和8年10月 基本・実施設計策定
- 令和9年1月 工事発注
- 令和9年3月 工事完了・リニューアルオープン

想定される予算

- 備品購入費(机・食器等) 2,000,000円
- 設計管理・工事費 35,000,000円